

令和8年度 第4回薬学実務実習ガイドライン改訂WG 議事録

日 時： 2026年8月31日（月） 15:00～17:00
形 式： 会場とZoomによるハイブリッド開催
場 所： 日本薬学会会長井記念館1階C会議室
出席者： 別記1
配付資料： 別記2

今回は、実践実習費について審議した。まず、鈴木委員長が、資料1-1について説明した。薬学教育協議会としての標準額の提案という形となっており、内容としては、実践実習の目的と意義、特長、履修する学生の費用負担などについて記載されていて、関係方面へのお願いである旨を説明した。このほか、資料1-2、1-3と1-4は、実習受託料について薬剤師と他の医療職（作業療法士など）との比較の資料であると説明した。委員から、主に以下の点について意見が述べられ議論が交わされた。

- 実践実習の内容によって、その費用に幅が出る可能性があるのではないか。
- この実習費で、受入れてくれる施設があるのかどうか心配である。
- 実務実習の費用の見直しがされてこなかったうえに、実践実習の費用がそれよりも低く設定されたことに対して、施設側の対応が心配である。
- 費用の金額というよりも、実習生を受入れて指導しても、就職先が必ずしも薬局薬剤師ではないことが、受入れて指導する側としては残念である。
- 実習費が病院の収入として扱われるので、金額を上げてほしいという要望がある。
- 実習費の収入が病院薬剤部へ還元されていない場合があるのではないか。
- 実習費が薬剤部の実習運営に使われるようにする何らかの方策が必要ではないか。
- 実務実習後に追加の実習を行なっている大学がいくつかあるが、その際の費用はどうなっているのか調査してはどうか。
- 現在行われている追加の実習と今後行われる予定の実践実習との区別が明確になっていないのではないか。
- 上記の点について、追加の実習を行なっている大学へ調査してはどうか。
- 資料1-1の提案書について、まずは日薬、日病薬などへ打診してはどうか。

以上の議論の結果、①追加の実習を行なっている大学に対して、上記の2点（実習費用額と実践実習へ移行する予定であるかどうか）についてアンケート調査を行うこと、また、②日薬、日病薬などへ資料1-1をお送りしてご意見を伺うことの2つについて対応することとなった。

別記 1

<出席者名簿>

所属	出席者名 (敬称略)	出欠
名古屋市立大学 特任教授	鈴木 匡	Web
和歌山県立医科大学 薬学部長	太田 茂	Web
一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事	石井 伊都子	Web
公益社団法人 日本薬剤師会 理事	小黒 佳代子	Web
名城大学薬学部 教授	大津 史子	Web
大阪医科薬科大学薬学部 専門教授	角山 香織	会場
東京理科大学薬学部 教授	真野 泰成	Web
帝京大学 名誉教授	小佐野 博史	会場
東北大学大学院薬学研究科・薬学部 教授	富岡 佳久	会場
桜台薬局	永田 泰造	Web
京都薬科大学 学長	平田 收正	Web
慶應義塾大学薬学部 教授	中村 智徳	会場
鈴鹿医療科学大学薬学部 教授	八重 徹司	Web
武庫川女子大学薬学部 教授	田内 義彦	Web
一般社団法人 薬学教育協議会 代表理事	本間 浩	会場

文部科学省高等教育局医学教育課	松本晴樹, 降旗みを, 甲山宏行, 岡本まとか	Web
厚生労働省医薬局総務課	神納 勇	Web

別記 2

<配付資料>

資料 1-1 実習費依頼文書 0831 案

資料 1-2 薬学実務実習費について 新六者懇資料

資料 1-3 作業療法士の臨床実習費用について

資料 1-4 実習費規定の例

参考資料 1 令和 8 年度第 3 回実務実習ガイドライン改訂 WG 会議議事録

参考資料 2 出席者名簿